

令和元年度

掛川市・袋井市病院企業団
病院事業会計決算審査意見書

掛川市・袋井市病院企業団監査委員

掛袋病企監 第7号
令和2年7月22日

掛川市・袋井市病院企業団
企業長 宮地正彦様

掛川市・袋井市病院企業団

監査委員 横山茂明

監査委員 鈴木英司

令和元年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計
決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された、令和元年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算及び附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出する。

目 次

第1	審査の対象	-----	1
第2	審査の期間	-----	1
第3	審査の方法	-----	1
第4	審査の結果及び意見	-----	1
	1 審査の結果	-----	1
	2 審査の意見	-----	2
第5	決算の概要	-----	4
	1 業務の執行状況	-----	4
	2 予算の執行状況	-----	7
	3 経営成績の状況	-----	10
	4 財政の状態	-----	17
	5 未処理欠損金の処理について	-----	18
第6	キャッシュ・フロー計算書	-----	19
第7	参考資料（附表1～3）	-----	21

注 記

- 1 金額は、原則として千円単位で表示し、単位未満は百円単位を四捨五入したため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2 比率（％）は、原則として小数点以下第2位を四捨五入したため、構成比の合計と内訳の計が一致しない場合又は決算書その他の書類と一致しない場合がある。なお、99.95%～99.99%の場合は、99.9%と表示した。
- 3 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - (1) マイナスは「△」と表示した。
 - (2) 該当数値のないものは「－」と表示した。
 - (3) 該当数値はあるが、単位未満のものは「0.0」と表示した。

令和元年度掛川市・袋井市病院企業団 病院事業会計決算審査意見

第1 審査の対象

令和元年度 掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算

第2 審査の期間

令和2年6月1日から令和2年7月22日までの間

第3 審査の方法

掛川市・袋井市病院企業団企業長から審査に付された決算書及び附属書類について、財務会計上の合規性の検証に加え、事務事業が経済的かつ効率的に執行されているか等に主眼をおき、通常実施すべき審査手続を実施した。

また、計数の確認、関係諸帳簿との照合等を行うとともに、関係職員の説明を聴取した。

第4 審査の結果及び意見

1 審査の結果

審査に付された当年度の決算書及び附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、関係諸帳簿及び証拠書類といずれも符合し、適正であると認められた。

(1) 業務実績

運営状況は、1日平均入院患者数は前年度比 19.5人(4.5%)減の 415.2人となり、病床利用率は、前年度比 3.9ポイント減の 83.0%となった。また、1日平均外来患者数は、前年度比 32.8人(2.6%)減の 1,209.0人となった。

診療単価は、入院が前年度比 2,535円増の 65,723円、外来が前年度比 961円増の 14,751円となった。主な要因は、手術件数の増や、急性期医療に重点を置いた結果、高額医療を要する患者の割合が上昇したためである。

一方、医師1人当たりの診療単価は、前年度比3,649円減の457,243円となった。

(2) 経営成績

医業収益(税抜)は、夏以降に患者数が伸び悩んだこと、新型コロナウイルスの影響による患者数の減等に伴い入院収益が減少したものの、高額な薬剤の使用に伴い外来収益が増加したことから、前年度から微増(0.2%)の15,352,792千円となった。

医業費用(税抜)は、前年度比236,079千円(1.5%)増の16,250,271千円となった。主な要因は、研修医を含む医師、医療技術員等の増員に伴う給与費の増、外来化学療法等で用いる薬品費の増等である。

その結果、医業損益は、前年度から208,341千円悪化し、897,479千円の損失となった。

経常収支(税抜)は、収益16,700,332千円に対し、費用17,114,757千円となり、当年度経常損失は414,425千円となった。これに特別利益25,388千円を加え、過年度診療報酬修正等による特別損失5,291千円を差し引いた当年度純損失は394,327千円となり、当年度未処理欠損金は、1,593,033千円となった。

(3) 財政状態

当年度末の資産合計は、前年度比396,514千円(2.0%)増の20,416,483千円となった。これは、主に第2期医療情報システム更新に伴う無形固定資産(ソフトウェア)887,573千円の増加によるものである。負債合計は、前年度比740,298千円(3.7%)増の20,633,755千円となった。うち企業債は、前年度比634,348千円の増で、未償還残高は16,969,691千円となっている。資本合計は、前年度から343,784千円減少し、217,272千円の債務超過となった。

2 審査の意見

中東遠総合医療センターは、開院から7年が経過した。

手術件数や人間ドック受診者数を増加させたことや、目標であった「静岡県地域がん診療連携推進病院」の指定を受けたこと、また、院内感染防止に努めながら、第二種感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症対策に取り組まれたことを高く評価する。感染リスクの懸念による患者数の減少、研修機会の減少など、新型コロナウイルス感染症の影響は、当分の間続くと思込まれるため、状況に応じた医療体制のあり方を検討・研究されたい。

第2期医療情報システムの導入に当たっては、企業長以下、職員全員が、システム向上と職場環境改善に寄与すべく努められていた。診療の待ち時間短縮、職員の負担軽減及び業務効率化の効果に期待したい。

また、次回以降のシステム更新の際には、今回の導入事例を十分に検証し、より公平で客観的な選定方法について研究されたい。また、カスタマイズは、一般的に保守等に多額な費用を伴う場合もあることから、慎重に行うよう配慮されたい。

最後に、企業団には、今後とも両市との連携をより強化し、中東遠地域を支える急性期医療と地域医療の基幹的な役割を果たされることを期待する。病院経営は、極めて厳

しい現状にあるが、新型コロナウイルス終息後には債務超過の解消を目指し、医療の質や患者満足度をより一層向上させるとともに、さらなる経営の効率化と経費節減に努められたい。

第5 決算の概要

1 業務の執行状況（予算書第2条関係・業務の予定と実績対比）

(1) 病床の利用状況

区 分	令和元年度	平成30年度	比較増減	平成30年度県平均
病 床 数 (床)	500	500	0.0	-
病 床 利 用 率 (%)	83.0	86.9	△ 3.9	82.7
平均在院日数 (日)	9.7	9.8	△ 0.1	15.8

- ・ 病床数は 500床、病床利用率は 83.0%で、前年度から 3.9ポイント減少した。
- ・ 平均在院日数は9.7日と前年度対比 0.1日短くなった。

(2) 患者数の状況

(単位:人、%)

区 分	令和元年度			平成30年度	増 減	
	当初予定数	補正後	実績 ①	実績 ②	①-②	伸び率
延べ入院患者数 (診療実日数)	164,700 (366 日)	164,700 (366 日)	151,964 (366 日)	158,667 (365 日)	△6,703 (1 日)	△ 4.2
延べ外来患者数 (診療実日数)	300,000 (240 日)	300,000 (240 日)	290,167 (240 日)	303,010 (244 日)	△12,843 (△ 4 日)	△ 4.2
一日平均入院患者数	450.0	450.0	415.2	434.7	△ 19.5	△ 4.5
一日平均外来患者数	1,250.0	1,250.0	1,209.0	1,241.8	△ 32.8	△ 2.6

- ・延べ入院患者数は 6,703人、延べ外来患者数は 12,843人減少した。
- ・患者数の多い診療科は、入院では、循環器内科 18,967人、整形外科 18,761人、呼吸器内科 16,455人、外来では、内科 48,879人、整形外科 20,744人、眼科 19,786人となっている。
- ・患者数が減少した主な診療科は、入院では消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、外来では整形外科、小児科、消化器内科である。主な要因は、インフルエンザによる入院患者数の減、前年より診療日が4日少なかったことによる外来患者数の減等である。

[資料 1]

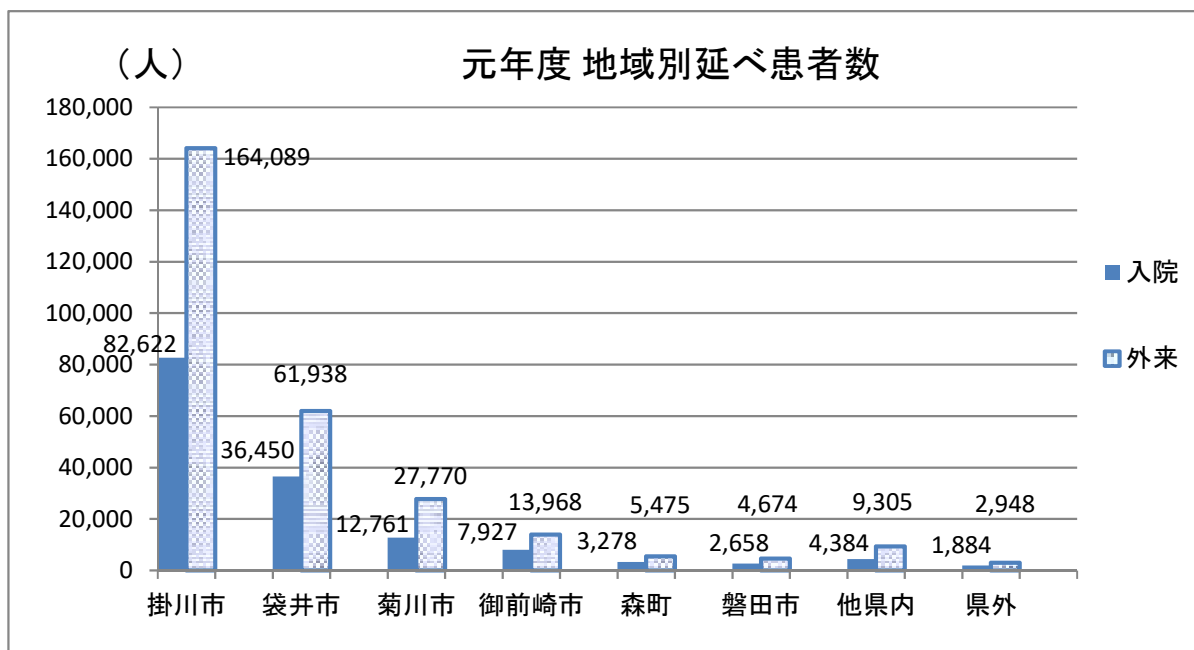
地域別延べ患者数(入院・外来)

入 院 (単位:人)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
令和元年度	82,622	36,450	12,761	7,927	3,278	2,658	4,384	1,884	151,964
平成30年度	86,444	38,693	11,916	8,485	3,347	2,597	5,058	2,127	158,667
増 減	△ 3,822	△ 2,243	845	△ 558	△ 69	61	△ 674	△ 243	△ 6,703
伸び率	△ 4.4	△ 5.8	7.1	△ 6.6	△ 2.1	2.3	△ 13.3	△ 11.4	△ 4.2

外 来 (単位:人)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
令和元年度	164,089	61,938	27,770	13,968	5,475	4,674	9,305	2,948	290,167
平成30年度	171,269	66,367	26,653	14,811	6,155	4,527	9,902	3,326	303,010
増 減	△ 7,180	△ 4,429	1,117	△ 843	△ 680	147	△ 597	△ 378	△ 12,843
伸び率	△ 4.2	△ 6.7	4.2	△ 5.7	△ 11.0	3.2	△ 6.0	△ 11.4	△ 4.2



(3) 建設改良の執行状況（消費税含む）

ア 施設改良費	予算額 90,568千円	決算額 60,262千円
---------	--------------	--------------

〔主な施設改良費〕

・職員第2駐車場用地購入費	54,102 千円
---------------	-----------

イ 資産購入費	予算額 2,116,110千円	決算額 1,952,166千円
---------	-----------------	-----------------

〔主な有形固定資産〕

器械備品

・ 第2期医療情報システム（ソフト）	944,936 千円
・ 第2期医療情報システム（ハード）	572,464 千円
・ 第2期ネットワーク構築	136,958 千円
・ 麻酔システム	17,582 千円
・ 手術用顕微鏡	17,545 千円
・ 心臓リハビリテーション用運動負荷試験装置	15,180 千円

2 予算の執行状況（消費税含む）

(1) 収益的収入及び支出（第3条関係）

ア 収益的収入の執行状況

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額		決 算 額	執行率	増減額
	当 初	現 額			
第1款 病院事業収益	17,399,229	17,399,229	16,797,909	96.5	△601,320
第1項 医業収益	16,046,578	16,046,578	15,419,770	96.1	△626,808
第1目 入院収益	10,458,450	10,458,450	9,987,910	95.5	△470,540
第2目 外来収益	4,350,000	4,350,000	4,284,038	98.5	△65,962
第3目 その他医業収益	915,494	915,494	853,625	93.2	△61,869
第4目 他会計負担金	322,634	322,634	294,197	91.2	△28,437
第2項 医業外収益	1,352,650	1,352,650	1,352,750	100.0	100
第3項 特別利益	1	1	25,388	2,538,800	25,387

- ・ 病院事業収益は、予算現額 17,399,229千円に対し、決算額は、601,320千円減の 16,797,909千円となり、執行率は、96.5%となった。
- ・ 医業収益では、予算現額に対し入院収益が 470,540千円の減、外来収益が 65,962千円の減、他会計負担金が 28,437千円の減となり、総額では 626,808千円の減となった。

イ 収益的支出の執行状況

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額		決 算 額	執行率	不用額
	当 初	現 額			
第1款 病院事業費用	17,486,376	17,486,376	17,169,099	98.2	317,277
第1項 医業費用	16,746,069	16,741,335	16,471,632	98.4	269,703
第2項 医業外費用	719,518	724,252	692,175	95.6	32,077
第3項 特別損失	15,789	15,789	5,291	33.5	10,498
第4項 予備費	5,000	5,000	0	0	5,000

- ・ 病院事業費用は、予算現額 17,486,376千円に対し、決算額は、17,169,099千円で、317,277千円の不用額が生じ、執行率は、98.2%となった。
- ・ 不用額の主なものは、次のとおりである。

(医業費用)	予算現額	決算額	不用額
給与費	9,241,947 千円	9,114,274 千円	127,673 千円
経費	2,647,575 千円	2,578,450 千円	69,125 千円
(医業外費用)	予算現額	決算額	不用額
貸倒引当金医業外繰入額	57,580 千円	42,580 千円	15,000 千円
院内保育園運営費	67,214 千円	59,721 千円	7,493 千円

(2) 資本的収入及び支出 (第4条関係)

ア 資本的収入の執行状況

(単位:千円、%)

区 分	予 算 額		決 算 額	執行率	増減額
	当 初	現 額			
第1款 資本的収入	2,506,150	2,512,090	2,245,594	89.4	△266,496
第1項 企業債	1,820,000	1,820,000	1,517,400	83.4	△302,600
第2項 負担金	684,536	684,536	718,521	105.0	33,985
第3項 貸付資金返還金	1,614	1,614	3,774	233.8	2,160
第4項 補助金	0	5,940	5,899	99.3	△41

- ・ 資本的収入は、予算現額 2,512,090千円に対し、決算額は、266,496千円減の 2,245,594千円となり、執行率は、89.4%となった。
- ・ 企業債は、予算現額 1,820,000千円に対し、決算額は、302,600千円減の 1,517,400千円となった。
これは、「第2期医療情報システム」の導入に当たり、システム端末台数の見直し等により、借入れが減少したためである。
- ・ 負担金は、予算現額 684,536千円に対し、決算額は、33,985千円増の 718,521千円となった。

イ 資本的支出の執行状況

(単位:千円、%)

区 分	予 算 額		決 算 額	執行率	不用額
	当 初	現 額			
第1款 資本的支出	3,133,210	3,133,210	2,900,610	92.6	232,600
第1項 建設改良費	2,206,678	2,206,678	2,012,428	91.2	194,250
第2項 企業債償還金	917,532	917,532	883,052	96.2	34,480
第3項 投資	9,000	9,000	5,130	57.0	3,870

- ・ 資本的支出は、予算現額 3,133,210千円に対し、決算額は、2,900,610千円で、232,600千円の不用額が生じ、執行率は、92.6%となった。
- ・ 建設改良費の支出内容は、主に第2期医療情報システム構築費である。
- ・ 投資の支出内容は、看護学生修学資金貸付金である。

ウ 資本収支状況

資本的収入が資本的支出に不足する額 655,016千円は、

当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額	7,797 千円
過年度分損益勘定留保資金	647,219 千円

で補てんされている。

(3) 企業債の発行と償還状況(第6条関係)

(単位:千円、%)

区 分	30年度末残高	元年度借入額	元年度借入利率	元年度償還額	元年度末残高
企業債	16,335,343	1,517,400	0.002	883,052	16,969,691

本年度は、1,517,400千円を借入し、883,052千円を償還したため、未償還残高は16,969,691千円となった。借入限度額は、医療機器等整備事業1,820,000千円、借入利率は、5.0%以内と定められており、いずれも範囲内である。

(4) 一時借入金(第7条関係)

一時借入金の限度額は1,500,000千円であるが、本年度は一時借入金は発生していない。

(5) 議会の議決を要する経費の流用(第9条関係)

職員給与費及び交際費の流用は、議会の議決を経なければならない経費であるが、当年度の流用はなかった。

	予算現額	決算額
(1) 職員給与費	9,258,428 千円	9,130,635 千円
(2) 交 際 費	569 千円	433 千円

(6) たな卸資産(第10条関係)

たな卸資産の限度額は3,750,362千円であるが、購入額は3,667,608千円であり、限度額の範囲内である。

購入額内訳:	薬 品	1,956,009 千円
	診療材料	1,711,599 千円

3 経営成績の状況（消費税除く）

(1) 経営収支の状況

（単位：千円、％）

区 分		令和元年度		平成30年度		増減額	伸び率	
		金 額	構成比	金 額	構成比			
経 常 収 支	経 常 収 益	医業収益 (1)	15,352,792	91.9	15,325,054	90.7	27,738	0.2
		入院収益	9,987,503	59.8	10,025,803	59.3	△38,300	△ 0.4
		外来収益	4,280,307	25.6	4,178,524	24.7	101,783	2.4
		その他医業収益	790,785	4.7	791,663	4.7	△878	△ 0.1
		他会計負担金	294,197	1.8	329,064	1.9	△34,867	△ 10.6
	益	医業外収益 (2)	1,347,540	8.1	1,569,508	9.3	△221,968	△ 14.1
		うち 負担金交付金	713,392	4.3	885,207	5.2	△171,815	△ 19.4
		うち 長期前受金戻入	528,009	3.2	564,649	3.3	△36,640	△ 6.5
	計 (A)		16,700,332	100.0	16,894,562	100.0	△194,230	△ 1.1
	経 常 費 用	医業費用 (3)	16,250,271	94.9	16,014,192	95.3	236,079	1.5
		うち 給与費	9,106,269	53.2	8,784,259	52.3	322,010	3.7
		うち 材料費	3,542,688	20.7	3,409,629	20.3	133,059	3.9
		うち 経 費	2,388,903	14.0	2,290,716	13.6	98,187	4.3
		うち 減価償却費	1,114,133	6.5	1,441,297	8.6	△327,164	△ 22.7
医業外費用 (4)		864,486	5.1	781,344	4.7	83,142	10.6	
うち 支払利息及び 企業債取扱諸費		231,870	1.4	240,135	1.4	△8,265	△ 3.4	
うち 雑損失		509,396	3.0	438,231	2.6	71,165	16.2	
計 (B)		17,114,757	100.0	16,795,536	100.0	319,221	1.9	
特別 収支	特別利益 (5)	25,388	0.2	9,112	0.1	16,276	178.6	
	特別損失 (6)	5,291	0.0	132,302	0.8	△127,011	△ 96.0	
医業損益 (1)－(3)＝(C)		△897,479	－	△689,138	－	△208,341	－	
経常損益 (A)－(B)＝(D)		△414,425	－	99,026	－	△513,451	－	
当年度純損益 (D)＋(5)－(6)＝(E)		△394,327	－	△24,164	－	△370,163	－	
前年度繰越欠損金 (F)		1,198,706	－	1,174,542	－	24,164	－	
減 資 額 (G)		0	－	0	－	0	－	
当年度未処理欠損金 (E)＋(F)＋(G)		1,593,033	－	1,198,706	－	394,327	－	
総収支比率 (A)＋(5) / (B)＋(6)		97.7		99.9		△ 2.2		
医業収支比率 (1)/(3)		94.5		95.7		△ 1.2		

- ・ 医業収益は、がん症例患者の増等により増加した。また、医業費用は、減価償却費が大きく減少したものの、給与費の増等により、増加した。
- ・ 医業損益は、前年度比 208,341千円減の △897,479千円となった。
- ・ 経常損益は、前年度比 513,451千円減の △414,425千円となった。主な要因は、両市からの負担金の減、給与費、材料費等の費用が増加したこと等によるものである。
- ・ 経常損益に特別利益と特別損失を加えた当年度純損失は、394,327千円となった。
- ・ 当年度純損失 394,327千円に前期繰越欠損金を加えた当年度未処理欠損金は 1,593,033千円となった。
- ・ 医療業務活動の能率効果を測定する医業収支比率は、前年度比 1.2ポイント減の 94.5%となった。

[資料 2]

両市からの繰入れの状況は、次表のとおりである。

経常収支と繰入金決算額の推移

(単位:千円、%)

区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	前年度 比較増減
経常収益	15,345,373	16,373,912	17,148,444	16,894,562	16,700,332	△ 194,230
うち医業収益 ①	14,461,194	14,742,481	15,466,714	15,325,054	15,352,792	27,738
経常費用	15,939,639	16,382,756	17,224,853	16,795,536	17,114,757	319,221
うち医業費用 ②	15,200,994	15,592,755	16,297,576	16,014,192	16,250,271	236,079
医業損益 ①-②	△ 739,800	△ 850,274	△ 830,861	△ 689,138	△ 897,479	△ 208,341
経常損益	△ 594,266	△ 8,843	△ 76,410	99,026	△ 414,425	△ 513,451

両市からの繰入金(3条)	951,668	954,048	861,079	1,214,271	1,007,589	△ 206,682
繰入金を除く経常損益	△ 1,545,934	△ 962,891	△ 937,489	△ 1,115,245	△ 1,422,014	△ 306,769
繰入金/経常収益(%)	6.2	5.8	5.0	7.2	6.0	△ 1.2

両市からの繰入金決算額の推移

(単位:千円)

区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	前年度 比較増減	
両市からの繰入金	2,726,110	1,726,936	1,726,110	1,726,110	1,726,110	0	
内 訳	収益的収入 (3条)	951,668	954,048	861,079	1,214,271	1,007,589	△ 206,682
	掛川市	555,799	557,050	500,732	717,276	591,033	△ 126,243
	袋井市	395,869	396,998	360,347	496,995	416,556	△ 80,439
	資本的収入 (4条)	1,774,442	772,888	865,031	511,839	718,521	206,682
	掛川市	1,077,383	464,215	519,259	307,174	430,791	123,617
	袋井市	697,059	308,673	345,772	204,665	287,730	83,065

自治体病院事業に要する経費のうち、

- ① その性質上経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費

例:救急医療の確保、保健衛生行政事務に要する経費など

- ② 病院事業の性質上、能率的な経営を行っても、なおその経営に伴う収入のみをもって

充てることが、客観的に困難であると認められる経費

例:病院の建設改良に要する経費、高度医療の経費など

については、地方公営企業法により、地方公共団体が負担するものとされている。

※ 平成27年度は両市から追加出資 1,000,000千円を受け入れている。

(2) 医業収益の状況

ア 患者の1人・1日当たりの診療収入(診療単価)

入院

算式	令和元年度		平成30年度		比較増減
入院収益(千円)	9,987,504	65,723 円	10,025,803	63,188 円	2,535 円
年延入院患者数(人)	151,964		158,667		

外来

算式	令和元年度		平成30年度		比較増減
外来収益(千円)	4,280,307	14,751 円	4,178,524	13,790 円	961 円
年延外来患者数(人)	290,167		303,010		

- ・ 診療単価は、入院は前年度比 2,535円の増、外来は前年度比 961円の増となった。

イ 医師及び看護師の1人・1日当たりの診療収入(診療単価)

医師

算式		令和元年度		平成30年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	9,987,504	276,555 円	10,025,803	283,896 円	△ 7,341 円
	年延医師数(人)	36,114		35,315		
外来	外来収益(千円)	4,280,307	180,688 円	4,178,524	176,996 円	3,692 円
	年延医師数(人)	23,689		23,608		
入院+外来		457,243 円		460,892 円		△ 3,649 円

- ・ 入院、外来を合計した医師1人当たりの診療単価は、前年度比 3,649円の減となった。

看護師

算式		令和元年度		平成30年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	9,987,504	50,658 円	10,025,803	51,752 円	△ 1,094 円
	年延看護師数(人)	197,154		193,727		
外来	外来収益(千円)	4,280,307	33,107 円	4,178,524	32,261 円	846 円
	年延看護師数(人)	129,288		129,524		
入院+外来		83,765 円		84,013 円		△ 248 円

- ・ 入院、外来を合計した看護師1人当たりの診療単価は、前年度比 248円の減となった。

ウ 職員一人当たりの医業収益（年間）

算式	令和元年度		平成30年度		比較増減
医業収益(千円)	15,352,792	17,289 千円	15,325,054	17,595 千円	△ 306 千円
損益勘定職員数(人)	888		871		

※損益勘定職員数には、特別職である企業長を含む。

・職員1人当たりの医業収益は、前年度比 306千円の減となった。

エ 入院外来収益内訳表

(単位:千円、%)

区 分	令和元年度		平成30年度		増減額	伸び率	
	金 額	構成比	金 額	構成比			
入 院	入院料	4,562,188	45.7	4,588,475	45.8	△ 26,287	△ 0.6
	処置・手術	2,787,356	27.9	2,737,532	27.3	49,823	1.8
	検査	542,146	5.4	583,153	5.8	△ 41,007	△ 7.0
	注射	374,089	3.7	393,382	3.9	△ 19,293	△ 4.9
	放射線	274,600	2.7	277,239	2.8	△ 2,639	△ 1.0
	給食	235,550	2.4	246,167	2.5	△ 10,618	△ 4.3
	投薬	139,138	1.4	155,157	1.5	△ 16,018	△ 10.3
	その他	1,072,438	10.7	1,044,698	10.4	27,740	2.7
	計	9,987,504	100.0	10,025,803	100.0	△ 38,300	△ 0.4
外 来	注射	1,176,499	27.5	1,061,529	25.4	114,970	10.8
	検査	900,828	21.0	935,255	22.4	△ 34,427	△ 3.7
	放射線	718,657	16.8	737,027	17.6	△ 18,370	△ 2.5
	処置・手術	525,112	12.3	523,596	12.5	1,516	0.3
	再診料	143,233	3.3	150,002	3.6	△ 6,769	△ 4.5
	初診料	97,405	2.3	106,149	2.5	△ 8,744	△ 8.2
	投薬	61,940	1.4	43,485	1.0	18,454	42.4
	その他	656,632	15.3	621,480	14.9	35,152	5.7
	計	4,280,307	100.0	4,178,524	100.0	101,783	2.4
入院・外来 計	14,267,810	-	14,204,327	-	63,483	0.4	

・入院収益は、手術件数の増加により、処置・手術が前年度比 49,823千円(1.8%)の増となったが、検査及び入院料が減となったことから、前年度比 38,300千円(0.4%)の減となった。

・外来収益は、診療日数が前年度より少なかったこと、新型コロナウイルスの影響等により、外来患者数が減少したこと等で、検査、放射線等の収入は減少したが、がん症例患者の増に伴い注射収入が増加したことから、前年度比 101,783千円(2.4%)の増となった。

オ その他医業収益の状況

(単位:千円、%)

区 分	令和元年度	平成30年度	増減額	伸び率
医療相談収益	394,647	382,216	12,432	3.3
公衆衛生活動収益	185,896	182,051	3,845	2.1
室料差額収益	120,070	129,999	△9,929	△7.6
受託検査施設利用収益	2,635	2,676	△41	△1.5
その他医業収益	87,536	94,722	△7,186	△7.6
合 計	790,785	791,663	△878	△0.1

※ 病院事業会計 精算表より転記

・ 医療相談収益 (人間ドック収益他)

主なものとして	人間ドック (日帰り 11,881件、1泊 24件)	375,119 千円
	脳ドック (325件)	9,948 千円
	PETがん検診 (46件)	5,152 千円

・ 公衆衛生活動収益 (健康診断・予防接種収益他)

主なものとして	妊産婦健診	47,765 千円
	予防接種	41,602 千円
	一般健康診断	35,743 千円

・ その他医業収益

主なものとして	文書料	42,477 千円
	新生児介補料	20,480 千円
	病衣使用料	9,637 千円

(3) 医業費用の状況

ア 給与費の状況

(単位:千円、%)

区 分	令和元年度	平成30年度	増減額	伸び率
医 業 収 益 ①	15,352,792	15,325,054	27,738	0.2
医 業 費 用 ②	16,250,271	16,014,192	236,079	1.5
給 与 費 ③	9,106,269	8,784,259	322,010	3.7
(うち退職給付引当金)	(582,482)	(502,877)	(79,605)	15.8
対医業収益比 (③÷①)	59.3	57.3	—	—
対医業費用比 (③÷②)	56.0	54.9	—	—

- ・対医業収益比は、前年度から 2.0ポイント上昇し、59.3%となった。
- ・給与費が前年度から 3.7%増加した主な要因は、研修医を含む医師、医療技術員等の増によるものである。

職員数の状況 (各年度3月31日現在)

(単位:人)

	医師	医療 技術員	看護師	事務部門	技術労務 部門	計	非常勤	合計
令和元年度	98	167	532	64	27	888	243	1,131
平成30年度	96	157	526	65	27	871	248	1,119
増 減	2	10	6	△1	0	17	△ 5	12

- ・職員数は、医師が2人、医療技術員 10人、看護師 6人が増員し、事務職員1人と非常勤5人が減員となり、全体では、前年度から 12人増員した。

医師推移 (年間平均在職者数)

(単位:人)

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	前年度比較 増減
医師年間平均在職者数	92.3	97.8	101.0	96.8	98.7	1.9

- ・医師の年間平均在職者数は、前年度から 1.9人増加した。

イ 材料費の状況

(単位:千円、%)

	令和元年度		平成30年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
材料費	3,542,688	100.0	3,409,629	100.0	133,059
薬品費	1,929,761	54.5	1,848,559	54.2	81,202
診療材料費	1,562,328	44.1	1,519,081	44.6	43,247
医療消耗備品費	45,289	1.3	38,237	1.1	7,052
給食材料費	5,311	0.1	3,752	0.1	1,559

- ・材料費は、前年度比 133,059千円増の 3,542,688千円となった。主な要因は、外来化学療法（外科、消化器内科）の増による薬品の増、コストの高いカテーテル手術の増及び使用材料価格の上昇である。

ウ 医業経費の状況

(単位:千円、%)

	令和元年度		平成30年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
経費	2,388,903	100.0	2,290,716	100.0	98,187
委託料	1,414,525	59.2	1,371,158	59.9	43,367
賃借料	301,642	12.6	272,406	11.9	29,236
光熱水費	204,109	8.5	197,968	8.6	6,141
負担金	149,935	6.3	154,122	6.7	△4,187
その他	318,692	13.3	295,062	12.9	23,630

- ・経費は、前年度比 98,187千円増の 2,388,903千円となった。主な要因は、施設設備の保守や警備に係る委託料の増、医師住宅借上料の増等である。

主な委託業務

医療機器保守業務	297,103 千円
医事業務	273,960 千円
給食業務	206,410 千円
施設設備保守業務	185,798 千円

4 財政の状態

資産・負債及び資本の状態を前年度と比較した貸借対照表は、次のとおりである。

(単位:千円、%)

区 分		令和元年度		平成30年度		増減額	伸び率
		金額	構成比	金額	構成比		
資 産	固定資産	15,731,115	77.1	14,964,225	74.7	766,890	5.1
	流動資産	4,685,368	22.9	5,055,744	25.3	△370,376	△ 7.3
資産合計		20,416,483	100.0	20,019,969	100.0	396,514	2.0
負 債	固定負債	17,325,732	84.9	16,762,594	83.7	563,139	3.4
	流動負債	2,832,808	13.9	2,801,518	14.0	31,291	1.1
	繰延収益	475,214	2.3	329,346	1.6	145,868	44.3
	計	20,633,755	101.1	19,893,457	99.4	740,298	3.7
資 本	資本金	1,302,075	6.3	1,302,075	6.5	0	0
	剰余金	△1,519,347	△ 7.4	△1,175,563	△ 5.9	△343,784	△ 29.2
	資本剰余金	73,686	0.4	23,143	0.1	50,543	218.4
	欠損金	△1,593,033	△ 7.8	△1,198,706	△ 6.0	△394,327	△ 32.9
	計	△217,272	△ 1.1	126,511	0.6	△343,784	△ 271.7
負債資本合計		20,416,483	100.0	20,019,969	100.0	396,514	2.0

(1) 資産の状態

当年度の資産合計は、前年度比 396,514千円増の 20,416,483千円となった。

【主な増減項目】

・固定資産（減価償却の実施による）

建物	10,450,602 千円	(525,095千円減)
器械備品	2,130,002 千円	(331,520千円増)

・無形固定資産

ソフトウェア	909,892 千円	(887,573千円増)
--------	------------	--------------

・流動資産

現金預金	2,133,166 千円	(361,173千円減)
未収金	2,339,104 千円	(42,710千円減)

貯蔵品回転率

(単位:円、回)

算 式	令和元年度		平成30年度		比 較
期首貯蔵＋当年度購入－期末貯蔵	3,551,210,702	20.8	3,416,691,369	21.4	△ 0.6
(期首貯蔵＋期末貯蔵)÷2	170,655,578		159,325,391		

・貯蔵品の回転率は、前年度比 0.6回減の 20.8回となった。

(2) 負債の状態

本年度の負債は、前年度比 740,298千円増の 20,633,755千円となった。

【主な増減項目】

・固定負債

企業債	15,814,231 千円	(361,939千円増)
引当金	1,396,804 千円	(258,548千円増)

・流動負債

未払金	1,139,410 千円	(181,048千円減)
-----	--------------	--------------

(3) 資本の状態

資本金は、前年度と同額の 1,302,075千円となった。

資本剰余金は、前年度比 50,543千円増の 73,686千円となった。

欠損金は、前期繰越欠損金 1,198,706千円に当年度純損失 394,327千円を加え、1,593,033千円となった。

資本金と剰余金を合わせた資本の合計は、前年度から 343,784千円減少し、217,272千円の債務超過となった。

5 未処理欠損金の処理について

当年度未処理欠損金 1,593,033千円については、全額を翌年度繰越欠損金としている。

第6 キャッシュ・フロー計算書

1 業務活動によるキャッシュ・フロー

(単位：千円)

項 目	令和元年度	平成30年度	増 減
1 当年度純損益	△ 394,327	△ 24,164	△ 370,162
2 減価償却費	1,114,133	1,441,297	△ 327,163
3 特別損失(減価償却費)	0	122,133	△ 122,133
4 固定資産除却費	16,004	6,928	9,076
5 長期貸付金貸倒引当金の増減額	42,580	19,120	23,460
6 長期前払消費税勘定償却	9,031	7,400	1,631
7 長期前受金戻入額	△ 528,009	△ 578,970	50,961
8 受取利息及び受取配当金	△ 90	△ 307	217
9 支払利息	231,870	240,135	△ 8,265
10 未収金の増減額	30,767	58,636	△ 27,869
11 たな卸資産の増減額	△ 26,173	3,513	△ 29,686
12 前払費用の増減額	△ 7,988	1	△ 7,988
13 前払金の増減額	654	△ 829	1,483
14 退職給付引当金の増減額	258,548	196,587	61,961
15 賞与引当金の増減額	△ 6,898	25,107	△ 32,005
16 法定福利費引当金の増減額	1,107	9,214	△ 8,107
17 未収金貸倒引当金の増減額	9,715	1,629	8,086
18 未払金の増減額	△ 145,976	144,323	△ 290,299
19 預り金の増減額	△ 54,280	△ 1,214	△ 53,066
小 計	550,671	1,670,539	△ 1,119,868
1 利息及び配当金の受取額	90	307	△ 217
2 利息の支払額	△ 231,870	△ 240,135	8,265
業務活動によるキャッシュ・フロー	318,891	1,430,711	△ 1,111,821

2 投資活動によるキャッシュ・フロー

1 有形固定資産の取得による支出	△ 1,014,418	△ 468,265	△ 546,153
2 無形固定資産の取得による支出	△ 959,810	0	△ 959,810
3 繰入金による収入(他会計負担金)	718,521	511,839	206,682
4 長期貸付金の貸付による支出	△ 5,130	△ 20,460	15,330
5 長期貸付金の返還による収入	3,774	1,974	1,800
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,257,063	25,088	△ 1,282,151

3 財務活動によるキャッシュ・フロー

1 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	1,517,400	307,600	1,209,800
2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 883,052	△ 862,728	△ 20,324
3 リース債務の返済による支出	0	△ 3,605	3,605
4 長期未払金の返済による支出	△ 57,349	△ 57,349	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	576,999	△ 616,082	1,193,081

資金増減額	△ 361,173	839,718	△ 1,200,890
-------	-----------	---------	-------------

資金期首残高	2,494,339	1,654,621	839,718
--------	-----------	-----------	---------

資金期末残高	2,133,166	2,494,339	△ 361,173
--------	-----------	-----------	-----------

キャッシュ・フロー計算書は、病院事業会計における純損益から、資産の増減を反映させ、減価償却費など、非資金項目を調整した「間接法」で作成し、実質資金収支（キャッシュ・フロー）を示したものである。

なお、本年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、318,891千円プラス、投資活動によるキャッシュ・フローは、1,257,063千円マイナス、財務活動によるキャッシュ・フローは、576,999千円プラスとなった。

以上により、資金期末残高は、2,133,166千円となった。

第7 参考資料

附表 1

最近3カ年の入院・外来 診療科別患者数、構成比及びすう勢比率

(単位：人、%)

区 分		入 院				外 来			
		平成29年度	平成30年度	令和元年度	対前年度 差・伸び率	平成29年度	平成30年度	令和元年度	対前年度 差・伸び率
内 科	患者数	23,116	14,932	15,068	136	51,825	49,968	48,879	△1,089
	構成比	14.2	9.4	9.9		16.6	16.5	16.8	
	すう勢比率	100.0	64.6	65.2	0.9	100.0	96.4	94.3	△2.2
脳神経内科	患者数	6,497	7,312	7,409	97	9,468	9,962	10,393	431
	構成比	4.0	4.6	4.9		3.0	3.3	3.6	
	すう勢比率	100.0	112.5	114.0	1.3	100.0	105.2	109.8	4.3
呼吸器内科	患者数	18,520	18,881	16,455	△2,426	12,039	13,214	12,462	△752
	構成比	11.3	11.9	10.8		3.9	4.4	4.3	
	すう勢比率	100.0	101.9	88.8	△12.8	100.0	109.8	103.5	△5.7
消化器内科	患者数	17,082	18,595	14,772	△3,823	16,888	18,528	16,264	△2,264
	構成比	10.5	11.7	9.7		5.4	6.1	5.6	
	すう勢比率	100.0	108.9	86.5	△20.6	100.0	109.7	96.3	△12.2
循環器内科	患者数	19,729	20,395	18,967	△1,428	18,184	18,625	18,584	△41
	構成比	12.1	12.9	12.5		5.8	6.1	6.4	
	すう勢比率	100.0	103.4	96.1	△7.0	100.0	102.4	102.2	△0.2
外 科	患者数	12,215	12,360	11,735	△625	17,425	17,426	17,864	438
	構成比	7.5	7.8	7.7		5.6	5.8	6.2	
	すう勢比率	100.0	101.2	96.1	△5.1	100.0	100.0	102.5	2.5
小児外科	患者数	0	0	0	0	0	39	66	27
	構成比	0	0	0		0	0	0.0	
	すう勢比率	100.0	—	—	—	100.0	—	—	69.2
呼吸器外科	患者数	0	0	0	0	108	264	323	59
	構成比	0	0	0		0.0	0.1	0.1	
	すう勢比率	100.0	—	—	—	100.0	244.4	299.1	22.3
整形外科	患者数	19,196	19,672	18,761	△911	26,529	24,310	20,744	△3,566
	構成比	11.8	12.4	12.3		8.5	8.0	7.1	
	すう勢比率	100.0	102.5	97.7	△4.6	100.0	91.6	78.2	△14.7
リウマチ科	患者数	72	7	59	52	2,979	481	219	△262
	構成比	0.0	0.0	0.0		1.0	0.2	0.1	
	すう勢比率	100.0	9.7	81.9	742.9	100.0	16.1	7.4	△54.5
脳神経外科	患者数	13,465	12,671	14,722	2,051	10,227	8,031	6,899	△1,132
	構成比	8.2	8.0	9.7		3.3	2.7	2.4	
	すう勢比率	100.0	94.1	109.3	16.2	100.0	78.5	67.5	△14.1
小 児 科	患者数	5,492	5,447	5,129	△318	21,336	21,776	18,489	△3,287
	構成比	3.4	3.4	3.4		6.8	7.2	6.4	
	すう勢比率	100.0	99.2	93.4	△5.8	100.0	102.1	86.7	△15.1
産婦人科	患者数	9,520	9,908	9,265	△643	20,741	20,019	18,390	△1,629
	構成比	5.8	6.2	6.1		6.6	6.6	6.3	
	すう勢比率	100.0	104.1	97.3	△6.5	100.0	96.5	88.7	△8.1
泌尿器科	患者数	7,205	7,056	7,541	485	11,743	12,280	12,063	△217
	構成比	4.4	4.4	5.0		3.8	4.1	4.2	
	すう勢比率	100.0	97.9	104.7	6.9	100.0	104.6	102.7	△1.8
皮 膚 科	患者数	2,705	3,314	3,029	△285	15,744	14,953	15,522	569
	構成比	1.7	2.1	2.0		5.0	4.9	5.3	
	すう勢比率	100.0	122.5	112.0	△8.6	100.0	95.0	98.6	3.8
眼 科	患者数	2,473	2,287	2,360	73	21,909	19,757	19,786	29
	構成比	1.5	1.4	1.6		7.0	6.5	6.8	
	すう勢比率	100.0	92.5	95.4	3.2	100.0	90.2	90.3	0.1
耳 鼻 いんこう科	患者数	3,760	3,694	4,672	978	11,689	12,274	12,670	396
	構成比	2.3	2.3	3.1		3.7	4.1	4.4	
	すう勢比率	100.0	98.2	124.3	26.5	100.0	105.0	108.4	3.2
放 射 線 診 断 科	患者数	33	19	4	△15	8,251	8,411	8,263	△148
	構成比	0.0	0.0	0.0		2.6	2.8	2.8	
	すう勢比率	100.0	57.6	12.1	△78.9	100.0	101.9	100.1	△1.8
麻 酔 科	患者数	0	0	0	0	4,078	4,326	4,058	△268
	構成比	0	0	0		1.3	1.4	1.4	
	すう勢比率	100.0	—	—	—	100.0	106.1	99.5	△6.2
リハビリ テーショ ン 科	患者数	0	0	0	0	23	91	68	△23
	構成比	0	0	0		0	0.0	0.0	
	すう勢比率	100.0	—	—	—	100.0	395.7	295.7	△25.3
歯科口腔 外 科	患者数	1,731	1,576	1,434	△142	12,253	10,980	10,924	△56
	構成比	1.1	1.0	0.9		3.9	3.6	3.8	
	すう勢比率	100.0	91.0	82.8	△9.0	100.0	89.6	89.2	△0.5
精 神 科	患者数	0	0	0	0	60	47	55	8
	構成比	0	0	0		0.0	0.0	0.0	
	すう勢比率	100.0	—	—	—	100.0	78.3	91.7	17.0
救 急 科	患者数	438	541	582	41	19,091	17,248	17,182	△66
	構成比	0.3	0.3	0.4		6.1	5.7	5.9	
	すう勢比率	100.0	123.5	132.9	7.6	100.0	90.3	90.0	△0.4
計	患者数	163,249	158,667	151,964	△6,703	312,590	303,010	290,167	△12,843
	構成比	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	
	すう勢比率	100.0	97.2	93.1	△4.2	100.0	96.9	92.8	△4.2

(注) すう勢比率は、平成29年度を基準年度とした。

附表 2

最近3カ年の診療科別収入の構成比と患者一人当たり収入金額（消費税抜き）

区 分		診 療 収 入 (単位：千円、%)							
		平成29年度		平成30年度		令和元年度		対前年度	
		金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	比較増減	伸び率
内 科	入院	1,220,024		722,233		719,355		△2,878	△0.4
	外来	1,016,768		889,333		894,977		5,644	0.6
	計	2,236,791	15.6	1,611,567	11.3	1,614,332	11.3	2,765	0.2
脳神経内科	入院	308,120		375,827		381,846		6,019	1.6
	外来	139,142		136,333		140,440		4,107	3.0
	計	447,262	3.1	512,160	3.6	522,285	3.7	10,125	2.0
呼吸器内科	入院	851,855		925,605		811,752		△113,853	△12.3
	外来	251,339		282,210		335,580		53,370	18.9
	計	1,103,194	7.7	1,207,815	8.5	1,147,332	8.0	△60,483	△5.0
消化器内科	入院	795,998		911,023		766,249		△144,774	△15.9
	外来	287,352		353,087		342,164		△10,923	△3.1
	計	1,083,350	7.5	1,264,110	8.9	1,108,412	7.8	△155,698	△12.3
循環器内科	入院	1,672,312		1,754,752		1,867,704		112,952	6.4
	外来	256,214		266,118		254,237		△11,881	△4.5
	計	1,928,526	13.4	2,020,871	14.2	2,121,941	14.9	101,070	5.0
外 科	入院	911,158		983,612		951,870		△31,742	△3.2
	外来	431,364		407,498		445,717		38,219	9.4
	計	1,342,522	9.3	1,391,110	9.8	1,397,587	9.8	6,477	0.5
小児外科	入院	0		0		1		1	—
	外来	0		200		1,512		1,312	656.0
	計	0	0.0	200	0.0	1,513	0.0	1,313	656.5
呼吸器外科	入院	0		0		0		0	—
	外来	1,029		3,335		2,438		△897	△26.9
	計	1,029	0.0	3,335	0.0	2,438	0.0	△897	△26.9
整形外科	入院	1,259,300		1,309,844		1,210,782		△99,062	△7.6
	外来	212,214		187,484		168,101		△19,383	△10.3
	計	1,471,514	10.2	1,497,329	10.5	1,378,883	9.7	△118,446	△7.9
リウマチ科	入院	4,409		1,230		3,118		1,888	153.5
	外来	75,995		7,755		3,395		△4,360	△56.2
	計	80,404	0.6	8,985	0.1	6,513	0.0	△2,472	△27.5
脳神経外科	入院	1,012,545		942,815		1,053,805		110,990	11.8
	外来	121,023		96,065		87,806		△8,259	△8.6
	計	1,133,569	7.9	1,038,880	7.3	1,141,611	8.0	102,731	9.9
小 児 科	入院	258,564		282,796		318,721		35,925	12.7
	外来	218,787		231,166		195,231		△35,935	△15.5
	計	477,351	3.3	513,962	3.6	513,952	3.6	△10	△0.0
産婦人科	入院	598,410		677,879		678,348		469	0.1
	外来	128,280		108,899		118,058		9,159	8.4
	計	726,690	5.1	786,778	5.5	796,406	5.6	9,628	1.2
泌尿器科	入院	443,724		444,907		487,207		42,300	9.5
	外来	297,035		277,938		307,538		29,600	10.6
	計	740,759	5.2	722,845	5.1	794,745	5.6	71,900	9.9
皮 膚 科	入院	112,362		138,897		126,949		△11,948	△8.6
	外来	114,731		126,490		167,436		40,946	32.4
	計	227,092	1.6	265,386	1.9	294,385	2.1	28,999	10.9
眼 科	入院	172,000		179,040		188,452		9,412	5.3
	外来	209,381		213,162		230,775		17,613	8.3
	計	381,381	2.7	392,202	2.8	419,227	2.9	27,025	6.9
耳 鼻 いんこう科	入院	196,730		210,836		254,221		43,385	20.6
	外来	106,369		102,868		108,806		5,938	5.8
	計	303,100	2.1	313,704	2.2	363,027	2.5	49,323	15.7
放 射 線 診 断 科	入院	4,175		7,865		111		△7,754	△98.6
	外来	153,601		150,054		152,659		2,605	1.7
	計	157,776	1.1	157,919	1.1	152,770	1.1	△5,149	△3.3
麻 酔 科	入院	0		0		0		0	—
	外来	30,493		28,177		25,330		△2,847	△10.1
	計	30,493	0.2	28,177	0.2	25,330	0.2	△2,847	△10.1
リハビリ テーショ ン科	入院	0		0		0		0	—
	外来	63		55		188		133	241.8
	計	63	0.0	55	0.0	188	0.0	133	241.8
歯科口腔 外 科	入院	108,843		104,763		99,979		△4,784	△4.6
	外来	77,372		69,179		73,839		4,660	6.7
	計	186,216	1.3	173,943	1.2	173,818	1.2	△125	△0.1
精 神 科	入院	0		0		0		0	—
	外来	0		21		0		△21	△100.0
	計	0	0.0	21	0.0	0	0.0	△21	△100.0
救 急 科	入院	46,527		51,879		67,035		15,156	29.2
	外来	255,244		241,095		224,080		△17,015	△7.1
	計	301,772	2.1	292,974	2.1	291,115	2.0	△1,859	△0.6
計	入院	9,977,057	69.5	10,025,803	70.6	9,987,504	70.0	△38,299	△0.4
	外来	4,383,796	30.5	4,178,524	29.4	4,280,307	30.0	101,783	2.4
	計	14,360,853	100.0	14,204,327	100.0	14,267,810	100.0	63,483	0.4

区 分		患者一人当たり収入（単位：円、％）				
		平成29年度	平成30年度	令和元年度	対前年度	
					比較増減	伸び率
内 科	入院	52,778	48,368	47,741	△628	△1.3
	外来	19,619	17,798	18,310	512	2.9
	計	29,847	24,832	25,245	413	1.7
脳神経内科	入院	47,425	51,399	51,538	139	0.3
	外来	14,696	13,685	13,513	△172	△1.3
	計	28,015	29,649	29,339	△311	△1.0
呼吸器内科	入院	45,996	49,023	49,332	309	0.6
	外来	20,877	21,357	26,928	5,571	26.1
	計	36,100	37,632	39,677	2,044	5.4
消化器内科	入院	46,599	48,993	51,872	2,879	5.9
	外来	17,015	19,057	21,038	1,981	10.4
	計	31,891	34,052	35,714	1,662	4.9
循環器内科	入院	84,764	86,038	98,471	12,433	14.5
	外来	14,090	14,288	13,680	△608	△4.3
	計	50,867	51,791	56,508	4,718	9.1
外 科	入院	74,593	79,580	81,114	1,533	1.9
	外来	24,755	23,384	24,951	1,566	6.7
	計	45,294	46,703	47,217	514	1.1
小児外科	入院	0	0	0	0	—
	外来	0	5,127	22,911	17,784	346.9
	計	0	5,127	22,925	17,798	347.2
呼吸器外科	入院	0	0	0	0	—
	外来	9,525	12,632	7,549	△5,083	△40.2
	計	9,525	12,632	7,549	△5,083	△40.2
整形外科	入院	65,602	66,584	64,537	△2,047	△3.1
	外来	7,999	7,712	8,104	391	5.1
	計	32,182	34,044	34,904	860	2.5
リウマチ科	入院	61,243	175,737	52,849	△122,889	△69.9
	外来	25,510	16,123	15,503	△620	△3.8
	計	26,353	18,413	23,429	5,016	27.2
脳神経外科	入院	75,198	74,407	71,580	△2,827	△3.8
	外来	11,834	11,962	12,727	766	6.4
	計	47,846	50,183	52,801	2,618	5.2
小児科	入院	47,080	51,918	62,141	10,223	19.7
	外来	10,254	10,616	10,559	△56	△0.5
	計	17,793	18,880	21,761	2,881	15.3
産婦人科	入院	62,858	68,417	73,216	4,799	7.0
	外来	6,185	5,440	6,420	980	18.0
	計	24,014	26,290	28,798	2,508	9.5
泌尿器科	入院	61,586	63,054	64,608	1,554	2.5
	外来	25,295	22,633	25,494	2,861	12.6
	計	39,094	37,383	40,540	3,157	8.4
皮膚科	入院	41,539	41,912	41,911	△1	△0.0
	外来	7,287	8,459	10,787	2,328	27.5
	計	12,309	14,528	15,869	1,341	9.2
眼 科	入院	69,551	78,286	79,853	1,567	2.0
	外来	9,557	10,789	11,664	874	8.1
	計	15,642	17,792	18,930	1,138	6.4
耳 鼻 いんこう科	入院	52,322	57,075	54,414	△2,661	△4.7
	外来	9,100	8,381	8,588	207	2.5
	計	19,619	19,646	20,933	1,288	6.6
放射線 診断科	入院	126,507	413,948	27,707	△386,241	△93.3
	外来	18,616	17,840	18,475	635	3.6
	計	19,046	18,733	18,479	△254	△1.4
麻 酔 科	入院	0	0	0	0	—
	外来	7,477	6,513	6,242	△272	△4.2
	計	7,477	6,513	6,242	△272	△4.2
リハビリ テーション 科	入院	0	0	0	0	—
	外来	2,734	601	2,761	2,160	359.2
	計	2,734	601	2,761	2,160	359.2
歯科口腔 外 科	入院	62,879	66,474	69,720	3,246	4.9
	外来	6,315	6,300	6,759	459	7.3
	計	13,316	13,853	14,065	212	1.5
精 神 科	入院	0	0	0	0	—
	外来	0	445	8	△437	△98.3
	計	0	445	8	△437	△98.3
救 急 科	入院	106,227	95,895	115,180	19,286	20.1
	外来	13,370	13,978	13,042	△937	△6.7
	計	15,452	16,469	16,388	△81	△0.5
計	入院	61,116	63,188	65,723	2,535	4.0
	外来	14,024	13,790	14,751	961	7.0
	計	30,180	30,767	32,271	1,504	4.9

(注) 計は、入院及び外来収益を年延患者数で除したものである。

附表 3
財務分析表

分析項目	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算式	説明
固定資産構成率	%	79.0	74.7	77.1	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	固定資産と資産総額との割合を表すもので、この比率の高いことは公営企業の特徴であるが、低いほうが望ましい。
固定負債構成率	%	84.3	83.7	84.9	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	固定負債と総資本との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
自己資本構成率	%	0.6	0.6	△1.1	$\frac{\text{資本金+剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	自己資本と総資本の割合を表すもので、この比率の高いほうが望ましい。
固定資産対長期資本比率	%	99.8	95.2	100.9	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+固定負債}} \times 100$	固定資産と長期資本（資本金と固定負債との合計）との割合で、資本固定化の程度を表すものであって100%以下であることが望ましい。
固定比率	%	12,635.8	11,828.4	△7,240.3	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金}} \times 100$	固定資産と自己資本との割合で、資本固定化の程度を表すものであって、100%以下であることが望ましい。
流動比率	%	161.7	180.5	165.4	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	流動資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、200%以上であることが望ましい。
当座比率	%	154.8	174.1	157.9	$\frac{\text{現金預金+未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	当座資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、100%以上であることが望ましい。
現金預金比率	%	62.5	89.0	75.3	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	現金・預金と流動負債の割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、20%以上であることが望ましい。
自己資本回転率	回	101.5	120.7	△338.3	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首資本金、剰余金} + \text{期末資本金、剰余金}) \div 2}$	自己資本の利用度を表すもので、原則として回転率の高いことが必要である。
固定資産回転率	回	0.9	1.0	1.0	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \div 2}$	固定資産の利用度を表すもので、収益性の観点からは回転率の高いほうがよいが、健全性の上からいえば回転率のあまり高いのはよくない。
減価償却率	%	10.6	9.8	7.9	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	固定資産の償却率を表すものである。
流動資産回転率	回	3.8	3.3	3.2	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産}) \div 2}$	流動資産の使用、利用度を表すものである。
未収金回転率	回	6.6	6.4	6.6	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首医業未収金} + \text{期末医業未収金}) \div 2}$	未収金の回収度（回収率）を表すもので、高いほど回転が早く、未収金が未回収のまま残留する期間が短いことを意味する。
総資本利益率	%	△0.2	△0.1	△0.2	$\frac{\text{当年度純利益}}{(\text{期首負債資本} + \text{期末負債資本}) \div 2} \times 100$	当期の純利益（純損失）と総資本との割合で、企業全体（総資本）の収益性を表すものである。
総収益対総費用比率	%	99.7	99.9	97.7	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	当期の総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
医業収益対医業費用比率	%	94.9	95.7	94.5	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	当期の医業収益と医業費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
利子負担率	%	1.4	1.4	1.4	$\frac{\text{支払利息}}{(\text{期首企業債、一時借入金} + \text{期末企業債、一時借入金}) \div 2} \times 100$	支払利息と負債との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
企業債償還元金対減価償却額比率	%	84.2	59.9	79.3	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{減価償却費}} \times 100$	企業債償還元金とその償還財源に充当すべき減価償却費との割合を表すもので、この比率の低いことが望ましい。